

# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	BRANCH松井山手	階数	地上2階地下1階
建設地	京都府京田辺市山手中央3-1の一	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、飲食店、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2018年11月1日
敷地面積	13,235 m <sup>2</sup>	作成者	久保岳
建築面積	4,114 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	7,771 m <sup>2</sup>	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p><b>BEE = 0.9</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% ②建築物の取組み: 79% ③上記+②以外の: 79% ④上記+: 79%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p><b>Q のスコア = 2.8</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 2.6</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 3.0</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 2.9</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p><b>LR のスコア = 3.0</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 3.4</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 2.6</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 2.8</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>快適で効率的な建築運用を実現するために、屋外共用部主体のアウトレットモールとしている。</p>		<p><b>その他</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>利用客のアメニティの向上に配慮し、高い天井高と大開口を設けている。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>階高を1階は5m、2階を4.2m確保しゆとりある計画とした。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>壁面緑化等、街区に広がる緑地帯を設け、緑豊かな屋外空間とした。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>高効率型照明器具 (LED照明の採用)、WC照明の人感センサー一点滅の採用等、設備の省エネルギー化を図った。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>特になし</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地北側が静かな住宅地であることから、建物位置をできる限り北側から遠ざけ、目隠しフェンス等で設備機器を隠し、住宅地になじみやすい建物ボリュームとした。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される